



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

## 子どもたちが「できなかった」ことを「できる」ようにする 年度内に確実に理解・定着を図る取組を！

1月に実施した第2回みえスタディ・チェックを設問別に見ると「できるようになった設問」と「できなかった設問」が明らかになっています。各教科において、設問別に改善状況を捉えることで、年度内に確実に理解・定着を図る取組を進めていきましょう。

### 4月のみえスタディ・チェックで出題された設問は、できるようになっています

4月に実施したみえスタディ・チェックに出題した設問（課題のある設問）を同一・同趣旨で出題しました。主語と述語の照応、角の大きさ、反比例のグラフに関する設問などが、できるようになりました。

小学校	国語：漢字の書き「機会」	4月 19.5%	→	今回 55.4%
	文中の指示された述語に照応する主語を選択	4月 36.0%	→	今回 54.6%
	算数：親パンダの体重は子パンダの体重の何倍かを求める	4月 54.8%	→	今回 87.8%
	180°以上の角の大きさを測る	4月 24.2%	→	今回 44.9%
中学校	国語：漢字の書き「処置」	4月 41.6%	→	今回 63.2%
	文中の指示された述語に照応する主語を選択	4月 59.5%	→	今回 67.9%
	数学：反比例のグラフを選択	4月 48.8%	→	今回 63.1%
	今月 $akg$ で先月より 20%多いときの先月の量を $a$ を使って式で表す	4月 3.0%	→	今回 5.3%

改善



これらの改善は、4月実施で課題のあった設問を活用し、繰り返し指導を行うなど学習内容の理解・定着につなげる取組を各学校で進めてきた成果であると考えています。

一方で...

### 小6・中3の全国学調で出題された設問は、改善が難しい状況にあります

本年度の4月に実施された全国学力・学習状況調査で出題された設問のうち、課題となっていた設問についても、同一または同趣旨で出題しました。慣用句に関する設問や自分の考えをまとめて書くこと、また四則混合計算や式の意味を問う設問などで、改善が難しい状況にあります。

小学校	国語：登場人物の気持ちについて叙述を基に自分の考えをまとめる（記述）	今回 33.1%	(本年度小6比 - 3.3%)
	算数： $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選択	今回 27.6%	(本年度小6比 - 9.3%)
中学校	国語：主語を明確にして「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書く	今回 23.0%	(本年度中3比 + 2.9%)
	数学：2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明する	今回 17.5%	(本年度中3比 + 1.2%)

課題

さらに...

### その他の設問で、過去からの改善が図られていない設問があります

小学校	国語：文の主語を選択	今回 54.7%	(本年度小6比 - 0.9%)
	登場人物の関係を捉える	今回 72.7%	(本年度小6比 - 1.2%)
	算数： $6 + 0.5 \times 2$ の計算	今回 62.3%	(本年度小6比 - 0.9%)
	二次元表の中の数の意味を捉える	今回 65.2%	(本年度小6比 - 2.9%)
中学校	国語：白羽の矢が（立つ）	今回 49.7%	(本年度中3比 - 2.2%)
	手塩に（かけて）育てる	今回 50.7%	(本年度中3比 - 7.0%)
	数学： $2 \div 5 \times 0.6$ の計算	今回 60.6%	(本年度中3比 - 6.1%)
	相対度数を求める式	今回 41.4%	(本年度中3比 - 1.0%)

課題

## ●● 学習内容の確実な理解と定着を図る取組イメージ ●●

<取組の3つのステップ>

- みえスタディ・チェックの分析から、「できなかった設問」を明らかにする。
- 授業での繰り返し指導、補充学習、家庭学習の場面で、学校や市町独自の教材や県が提供している教材を活用して、「できるようにする取組」を組織的・計画的に進める。
- 取組により、「どこまでできるようになったか」を確認する。

### ● 「できなかった設問」を明らかにする

★全国学調、みえスタディ・チェック等を使って、前回の状況と比較し、できた設問、できなかった設問を学校全体で共有する。

過去の  
状況との  
比較例

平成30年度みえスタディ・チェック第2回 小学校算数 1(2)  
12÷0.8の式で求められる問題を選択(H30全国学調A8と同一趣旨の設問)  
正答率27.6%(過去平均正答率との比較:-9.3%)

【つまずき】

- 問題場面が捉えられていない  
「わられる数がわる数の幾つ分になっているか」  
「割合(倍)と基準量・比較量との関係がどのようになっているか」
- 「倍」「~本ずつ」などの言葉と、小数の除法の意味とをつなげられていない

### ● 「できるようにする取組」を組織的・計画的に進める

★子どもたちの状況に応じて、学Vivaセットや学校の独自資料等を活用し、確実に理解・定着を図る取組を行う。

具体的な  
取組例

- 対応するワークシートを活用して授業での繰り返し指導、補充学習、家庭学習に取り組む(5, 6年生)。
  - ・H27小3「答えを求める式から、問題を考えよう」
  - ・学Vivaセット第9弾「「倍」とかけ算・わり算③④」
- 問題の意味を確実に捉えられるよう、問題場面を図にかき表す活動を授業に取り入れ、繰り返し指導する(全学年)。

<県教育委員会が提供している資料>

- 「わかる・できる育成カリキュラム」(割合編)(図形編)【8月提供】
  - ・各学年の学習内容の積み上げが必要な小学校算数の「割合」「図形」について、小学校6年間の学習内容のつながりを把握し、より効果的な指導を行うための指導資料
- 「割合スペシャル」「計算マスター」「図形たしかめプリント」【10月】
  - ・子どもたちの学習内容の理解・定着状況を確認できるプリント
- 三重の学Vivaセット第12弾【11月】、第13弾【2月】
  - ・当該学年で身に付けておくべき基礎からの標準的な問題を集めたワークシート

「授業改善サイクル支援ネット」に、今回のみえスタディ・チェックの各設問に対応したワークシートを提供していますので、学校や子どもたちの状況に応じて、計画的に活用してください。

全年で図示する活動を取り入れ、量感イメージを捉えるための指導を行っている学校では、改善が図られています。



### ● 「どこまでできるようになったか」を確認する

- ★ 「できるようにになったか」をワークシート等で確認する。
- ★ 「できるようになる」まで授業や補充学習・家庭学習で繰り返し指導する

具体的な  
確認例

【各学年でおさえるべきポイント】

- 問題場面を図や数直線図に表し、数量の関係を的確に捉え、立式できるか(1年生～)。
- 乗法や除法の問題で、テープ図や数直線の図を用いて考えるとき、□(求める数)の場所が異なることが理解できているか(3年生～)。
- 割合(倍)に当たる大きさを求める場合には乗法、1に当たる大きさを求める場合には除法を用いることができるようになったか(4年生～)。

「わかる・できる育成カリキュラム」には、各学年の指導のポイントが掲載されています。確認してみましょう。

### ● 学力向上通信「三重の学-Viva!!」の活用に関するアンケートへの回答のお願い●

県教育委員会では、学力向上に向け、最新の教育情報や先進的な事例を共有し、授業改善をはじめとした教育実践につなげていくことを目的として、この学力向上通信「三重の学-Viva!!」を発行しています。より活用度の高い通信の作成のための参考資料としたいと考えておりますので、以下のURLにあるアンケートにご協力ください。

Click!

<https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/form.do?acs=viva>

## 中学校英語の実施にあたって

平成31年度、はじめて中学校英語調査が行われます。これまでの取組によって身に付いてきた生徒の力が十分発揮できるよう、また、英語の授業改善につながるよう、5月に行われた予備調査や実施要領から見てきたことを紹介します。

なお、各中学校に配付した学-Viva!!セット第12弾・第13弾には、英語ワークシートと指導資料【指導者の方へ】がありますので、ぜひ、子どもたちの学習内容の理解と定着状況の確認、そして授業改善に活用してください。

## ●中学校英語について●



## ★「聞くこと」「読むこと」「書くこと」(45分間)

・調査は調査用CDを校内放送機器等(またはCDプレイヤー等)で再生し、放送の指示に従って行います。(予備調査では、調査用CDにより、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」それぞれに時間が区切られ、出題及び時間管理が行われていました。)

## ★「話すこと」(5分程度)

・学校のPC教室等のパソコン端末を活用した音声録音方式で行われます。(口述式)  
・ヘッドセットを着用し、パソコンから流れてくる指示を聞いて、解答します。

＜生徒にあらかじめ伝えておきたい主な留意点＞

- ・ヘッドセットを正しく着用する。(左右間違えないように)
- ・調査開始のタイミングをあわせて同時に開始ボタンをクリックする。
- ・間違えても、制限時間内であれば、もう一度言い直すことができる。(言い直した解答を採点される)

## ●学校における実施体制の確認を●



①調査責任者(校長)、②学校担当者、③教室監督者(学級担任等)の他に、④英語「話すこと」調査担当者という役割があります。

※英語「話すこと」調査実施にかかる環境確認、必要な準備、コンピュータ室等で調査の進行を行います。

※「話すこと」調査担当者は、情報教育担当者等、PCの操作に慣れた教職員が適任です(英語担当教員である必要はありません。「話すこと」調査担当者は、英語担当教員と連携をとって実施できるよう体制を整えてください。)

各校に配付された  
マニュアルを熟読し、  
円滑な調査の実施を！



## 予備調査で出題された問題(平成31年度全国学力・学習状況調査リーフレットから)

## 読むこと

まとまりのある文章から大切な部分を読み取る

- 7 次の英語は、あなたが見つけたイングリッシュ・カフェ(English Café)という催しのホームページの一部です。参加者が事前に準備すべきことを知るためには、この中の1から4のどの部分を読めばよいですか。最も適切なものを1つ選びなさい。

## English Café

Free English Program

**Date** : Sunday, June 3rd  
**Time** : 3:00 p.m. - 5:00 p.m.  
**Place** : City Hall Restaurant

## Come to English Café and ...

- 1 { -You can enjoy speaking English with people from many countries.  
-You can learn about their countries: the U.S., Australia, Canada, China, India ...
- 2 { -You will have a chance to tell them about Japanese traditional things in English. Please think of something to talk about.
- 3 { -We are going to have some food from other countries.  
Of course, there will be Japanese food, too.

学習指導要領の領域：ウ「読むこと」(ウ)

## 話すこと

日常会話でのやり取りに即興で応じる

大問2 あなたは、ナオミと、イギリスから来たリチャード先生の3人で話をしています。まず、ナオミとリチャード先生が、2人で話している場面から始まります。その後、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは、始めます。



R: I want to visit three countries: the U.S., Australia, and China.

N: Why do you want to go to the U.S.?

R: Because I want to see a baseball game there. I'm interested in baseball.

N: I see.

R: And I want to go to Australia again.

N: When did you go?

R: Two years ago. It was a lot of fun.

N: Oh, I want to visit Australia.

R: Great!

(2人が画面の先の生徒の方を見る)

N: Well, do you have any other questions for him?

学習指導要領の領域：イ「話すこと」(ア)(イ)

## 中学校英語調査に関わる年度初めの主なスケジュール

4月1日 ★ 「USBヘッドセット」の受取

4月17日 ★ 英語「話すこと」調査プログラム ロック解除パスワードの受領、ロック解除

4月18日 ● 「平成31年度全国学力・学習状況調査」実施



# 平成 30 年度学校支援地域本部推進事業

学校支援地域本部推進事業では、学校教育活動の様々な課題に対して、地域のボランティアと協働し、授業等の学習補助、部活動の指導補助、学校環境整備、登下校の見守りなど、様々な取組を行っています。三重県では、特に、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていなかったりする児童生徒への学習支援として、大学生、学校外の民間教育事業者、NPO、地域住民等の協力を得て、地域未来塾の取組を推進しています。

## ●●● 地域未来塾の具体的な取組事例 ●●●

### 明和学びの里（明和）

明和町では、家庭での学習習慣がなかなか身につかない子どもたちへの支援、子どもと地域住民とのつながりづくりのために、平成30年6月から毎週月曜日（祝日等は除く）の19:00～20:50に、明和学びの里運営委員会が主催する地域未来塾に取り組んでいます。明和学びの里では、地域住民と大学生による学習支援サポーターの支援のもと、子ども自身が持参した教材に取り組んでいます。

#### 実施にあたっての課題

実施にあたって、運営委員会や学習支援サポーター等、協力いただける人材に集まっていたことが課題でした。そこで、包括連携をしている皇學館大学に協力を要請したり、三重大学へ出向いて教育学部の学生に地域未来塾の説明を行ったりしました。また、町の広報誌で協力を呼びかける等、町をあげて、人脈をたどり、人材発掘をしました。

#### 取組を進める上での工夫（中学生の取組）

運営委員と学習支援サポーターは、日々の活動がよりよい取組になるよう検討を重ねています。夏には星空観察、秋にはハロウィーン、冬にはクリスマス等のイベントを実施したりするなど、子どもだけでなく学習支援サポーターにも楽しんでもらう工夫をしています。

参加している  
生徒の声

- 「友だちと一緒に勉強できてたのしい」
- 「学習支援サポーターに質問に答えてもらえるのでうれしい」
- 「困っているときに声をかけてもらえるので助かる」
- 「家で勉強するよりはかどる」等の声が寄せられています。

明和学びの里運営委員会としては、生徒の学力をさらに伸ばしていきたいという考えから、実施回数を現在の週1回から増やす検討をしています。



### しま子ども未来教室（志摩）

志摩市では、家庭での学習習慣がなかなか定着することが難しい、経済的に塾に通えない等の生活課題を克服するため、志摩小学校の児童を対象に、しま子ども未来教室を平成29年度から開始しました。

#### 実施にあたって

児童の気持ちの切り替えのため、学校以外の場所で実施する意向で進めてきました。学校から離れているため、安全面の配慮をし、対象を4～6年生としました。平成29年4月、PTA総会で保護者に周知し、児童にはチラシを配付して参加を呼びかけました。当初、応募数は、わずか1人でした。その後、本人・保護者の承諾を得て取組を開始し、友だちや保護者のつながりの中から、少しずつ参加する児童が増えてきました。

#### 取組を進める上での工夫

「参加することを強制しない」「児童が緊張せずにリラックスして参加できる」等、「アットホームな雰囲気」をつくらうと話し合ってきました。そこで、学習支援員から「おかえり」「今日学校どうだった？」というような声かけをするなど、居心地がよくなるよう雰囲気づくりに心がけています。学習支援員の中に志摩小学校に勤める再任用教員がおり、学校での学習状況を学習支援員間で交流できるので、子どもたちの安心感につながっていると思います。

#### 児童の変容

児童の中に、友だちと一緒にがんばろうという雰囲気ができつつあります。最近では、学習内容につまずいたときに児童どうしが教え合う姿が見られるようになってきました。

このような成果も踏まえ、平成31年度には、大王中学校、大王小学校でも地域未来塾の実施を予定しています。中学生の学習支援は初めてですが、高校進学等の進路保障の取組として位置付けています。



※家庭・地域との連携についての取組例は、「平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析報告書」（11月配付）P.53にも掲載しています。ぜひ、取組の参考にしてください。